

分野	人家に対する地すべり対策急傾斜地崩壊対策			事業番号	11	事業名	地すべり対策				
市町村名	小谷村		ふりがな 箇所名	いちば ちゅう 市場2号		事業年度 (完了年度は見込み)	H24	年度 ~	H27	年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)		横ボ - リングL=3,000m				H23年度末事業進捗率		0 %		
	H24年度以降降実施内容		同上				本工事費等ベース		0 %		
	H24年度実施内容		地質調査、地形等測量、地すべり観測、地すべり解析1式				用地補償費ベース		0 %		
	年度		全体事業費		H22年度まで		H23年度		H24年度		H24年度以降降
	事業費計(千円)		100,000						20,000		100,000
財源内訳	国庫支出金		50,000		0		0		10,000		50,000
	その他										0
	県債		45,000		0		0		9,000		45,000
	一般財源		5,000		0		0		1,000		5,000
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			ランク	評点		
	必要性 (30)	保全対象人家数	10戸以上			1~9戸			0戸未満		
		保全対象公共施設数	2箇所以上			1箇所			なし		
		保全対象災害時要援護者関連施設	重要施設			一般施設			なし		
		土砂の河川への流入量	10万m3以上			1万~10万m3			1万m3未満		
			なし								
	小計										14
	重要性 (10)	交通遮断による地域経済などへの影響	大			中			小		
		防災計画上の位置づけ	位置付けあり			位置付けなし					
		小計									
	効率性 (10)	費用対効果(B/C)	B/C1.5以上			B/C1.0以上1.5未満			B/C1.0未満		
		早期発現度	5年未満			5年~10年			10年以上		
		代替案の検討	あり			なし					
		小計									
	緊急性 (40)	地すべり活動度	顕著な動きがある			軽微な動きがある			動きなし		
地すべり変状		変状あり			変状なし						
小計										40	
計画 熟度 (10)	地元の協力	反対意見なし			反対意見あり						
	地域からの要望	高い			それほど高くない						
	小計										10
費用対効果(B/C)		1.11			評価の合計			A		80	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当区域は地質が脆弱でたびたび土砂災害が発生しており、H23融雪期には地すべりで頭部に滑落崖が発生し、側部のクラック、末端部のはらみ出しなどを確認、地すべり活動が活発化している。また、現在保全対象人家は地すべり観測による避難体制にあり、唯一の生活道路である県道が寸断されれば人家60戸が孤立化するため、緊急的に恒久対策を行う必要がある。									
	地域からの要望経緯	H23.4月に発生したクラックについて、大規模な地すべり活動を不安視した潜在的な地域住民の要望がある。									
	事業説明等の経緯	H23.5月に現在の地すべりの状況について、区長、小谷村に対し説明を行った。									
	環境・景観への配慮項目	地すべり防止施設は地中構造物が主であり、環境への負荷は極めて小さいと考えられる。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。									
	特記事項	特になし。									
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他		
部意見	近年地すべりが活発化し、亀裂、段差等の活動が顕著で、保全対象である人家、県道への拡大兆候を示しており、道路が寸断されれば人家60戸が孤立化するため、緊急性も高く早急に対策を行う必要がある。				政策評価課 見		重要性、緊急性が高い。				